



平成 21 年 2 月 6 日

各 位

東京都品川区東五反田 1-11-15  
オメガプロジェクト・ホールディングス株式会社  
代表取締役社長 近藤 宜彰  
(コード番号 6819)

問い合わせ先  
取 締 役 諸 橋 裕  
電 話 番 号 03-5447-7750

## 特別損失の発生及び業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成21年2月6日開催の取締役会において、下記のとおり特別損失を計上するとともに、最近の業績の動向を踏まえ、平成20年11月7日に発表いたしました平成21年3月期（平成20年4月1日～平成21年3月31日）の通期業績予想（連結・個別）を修正することを決議いたしましたので、お知らせいたします。

### 記

#### 1. 特別損失の発生について

当社グループを取り巻く経営環境は、サブプライムローン問題に端を発した世界経済の悪化及び金融不安による先行き不透明感もあり、依然不安定かつ厳しい状況下にあります。この度、当社会計監査人との協議の下、リスク管理の厳格化に基づき当社グループの資産状況及び事業進捗・財務状況をより厳密に精査した結果、以下の特別損失を計上いたします。

#### (1) 営業用投資有価証券評価損【連結・個別】

従前から保有している営業用投資有価証券（短期売買を目的とした有価証券）の一部におきまして、今後の金融市場の動向と回復可能性を慎重に判断した結果、株価下落を要因とした営業用投資有価証券評価損を計上いたします。

	個別	連結
(A) 平成 21 年 3 月期第 3 四半期会計期間（平成 20 年 10 月 1 日から平成 20 年 12 月 31 日まで）の営業用投資有価証券評価損の総額（＝イーロ）	45 百万円	45 百万円
(イ) 平成 21 年 3 月期第 3 四半期累計期間（平成 20 年 4 月 1 日から平成 20 年 12 月 31 日まで）の営業用投資有価証券評価損の総額	83 百万円	83 百万円
(ロ) 直前四半期（平成 21 年 3 月期第 2 四半期）累計期間（平成 20 年 4 月 1 日から平成 20 年 9 月 30 日まで）の営業用投資有価証券評価損の総額	38 百万円	38 百万円

(注 1) 四半期における有価証券の評価方法は洗替方式を採用しております。

(注 2) 当社の第 3 四半期決算末は、12月31日であります。

純資産額・経常利益・当期純利益に対する割合

	個別	連結
(B) 平成20年3月期末の純資産額 (A/B×100) (イ/B×100)	883百万円 (5.1%) (9.4%)	1,047百万円 (4.3%) (7.9%)
(C) 最近5事業年度の経常利益の平均額 (A/C×100) (イ/C×100)	249百万円 (18.0%) (33.2%)	229百万円 (19.6%) (36.1%)
(D) 最近5事業年度の当期純利益の平均額 (A/D×100) (イ/D×100)	133百万円 (33.7%) (62.2%)	114百万円 (39.2%) (72.3%)

(注) 最近に終了した事業年度の経常利益及び当期純利益額が10億円未満であるため、経常利益及び当期純利益の額は、最近5事業年度の平均となっております。(経常損失及び当期純損失が発生している場合は、当該事業年度をゼロとして算出しております。)

(2) 関係会社評価損【個別】

当社グループの関係会社の財務状況及び業績悪化等を精査した結果、関係会社株式評価損として298百万円を計上いたします。

(3) のれん償却額【連結】

上記個別の特別損失に加えて当社子会社につき、リスク管理の厳格化を推し進めるべく、事業及び資産状況を勘案した結果、のれん償却額として76百万円を計上いたします。

これらの影響により、連結仕訳を行った結果、個別で合計345百万円、連結で合計129百万円を特別損失として計上いたします。

2. 連結業績予想の修正

(1) 通期累計期間(平成20年4月1日～平成21年3月31日) (単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想(A)	3,340	△257	△224	△1,139
今回修正(B)	3,100	△570	△530	△1,600
増減額(B-A)	△240	△313	△306	△461
増減率(%)	△7.2	—	—	—
(ご参考) 平成20年3月期実績	3,747	△1,092	△1,025	△6,240

(2) 修正理由

第3四半期会計期間に係るレジャー事業におきましては、順調に入園者数及び売上を伸ばしましたが、映像・音盤関連事業のうち、映像制作の受注数および受注高が当初予想よりも減少する結果となりました。また、個別におきまして、投資事業においては、事業再編を図るべく、事業基盤の構築を進めておりますが、当初見込んでおりました有価証券の売却が、市場環境の悪化の影響により進まず、第4四半期においても市場環境の回復が見込めな

め、売上高は、平成20年11月7日付「特別損失の発生及び業績予想の修正に関するお知らせ」にて発表いたしました予想金額より240百万円減少する見込みです。また、販売費及び一般管理費等につきましては、スポンサー費用を含む広告宣伝費やレジャー施設等の減価償却費の計上があるものの、賃借料等費用削減に努め、ほぼ例年通りの数字で推移しておりますが、当初策定しておりました費用削減計画を下回る見込みであります。よって、利益面におきましては、売上高減少とともに当初予想より費用が増加するため、営業利益は313百万円、経常利益は306百万円減少する見込みです。また、当期純利益におきましては、これらの理由に加え、前述1に記載の特別損失（129百万円）の発生により、予想金額より461百万円減少する見込みです。

## 2. 個別業績予想の修正

(1) 通期累計期間（平成20年4月1日～平成21年3月31日） (単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想 (A)	387	△202	△185	△1,003
今回修正 (B)	340	△450	△410	△1,600
増減額 (B－A)	△47	△248	△225	△597
増減率 (%)	△12.1	—	—	—
(ご参考) 平成20年3月期実績	1,507	△843	△772	△5,718

### (2) 修正理由

投資事業においては、事業再編を図るべく、事業基盤の構築を進めておりますが、当初見込んでおりました有価証券の売却が、市場環境の悪化の影響により進まず、第4四半期においても市場環境の回復が見込めないため、売上高は平成20年11月7日付「特別損失の発生及び業績予想の修正に関するお知らせ」にて発表いたしました予想金額より47百万円減少する見込みです。

利益面につきましては、売上高減少及び市場環境の悪化により取得原価を下回って売却した有価証券の損失分につき、当社会計方針に則り、営業用投資有価証券運用原価として仕入れ原価に計上したことによる原価増大や、株式事務手数料等が当初見込みより増加したことを主因とし、販売費及び一般管理費が当初予定の削減計画を下回る見込みであることに伴い、営業利益は248百万円、経常利益は225百万円減少する見込みです。また、当期純利益におきましては、上記理由に加え、前述1に記載の特別損失（345百万円）の発生により、予想金額より597百万円減少する見込みです。

※今回の業績予想修正値は、当社が現時点で入手可能な情報に基づき判断した数値であり、不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、予想数値と異なる場合があります。

以 上